

「リユース食器」で祇園祭のごみを減らす

京都府本部

千年以上の歴史がある京都の夏の風物詩、「祇園祭」^{ぎおんまつり}。今夏3年ぶりに通常開催されたこのお祭りでも、環境に配慮した先進的な取り組みが行われているのをご存じでしょうか。

戦」をスタート。京都府本部（事務局：京都銀行）では、この取り組みに協力し、「小さな親切」運動のロゴの入ったリユース食器を提供しています。

屋台の食べ物・飲み物はお祭りの楽しみの一つですが、国内外から多くの観光客が訪れる祇園祭では、近年ごみの増加が問題になっていました。そこで、2014年より世界初の試みとして、屋台などで販売される飲食物の容器をすべて「リユース食器」に切り替え、ごみの削減を目指す「祇園祭ごみゼロ大作

使用後回収・洗浄し、50回程度再利用できるリユース食器。使い捨て容器を使用した場合に比べて、ごみだけでなく二酸化炭素排出、水、エネルギーなどの削減にも効果があります。

このプロジェクトでは、リユース食器の回収・ごみの分別に加え、周辺の清掃など、毎年約2,000名のボランティアが参加。地球温暖化を防止するため定められた国際条約

「京都議定書」策定の地として、ごみの減量化と京都を美しく持続可能な地域にすることを目指しています。

歴史と伝統、魅力あふれる京都の町は、多くの方々の善意に支えられています。

「京都議定書」策定の地として、ごみの減量化と京都を美しく持続可能な地域にすることを目指しています。



八ヶ岳に咲く貴重な「高山植物」を守る

長野県諏訪総支部

諏訪湖の東方、長野県から山梨県へと連なる山々の総称「八ヶ岳」^{やがたけ}。そのうちの一つ硫黄岳^{いおう}周辺は、コマクサやウルップソウなどの貴重な高山植物の宝庫です。特に「ウルップソウ」は、本州では硫黄岳周辺のほかごく限られた地域にしか生息しないとても貴重な植物ですが、近年、ニホンジカによる食害が深刻となっています。

行政によって電気柵や防食ネット設置などの対策が行われているものの、それだけでは防ぎ切れず、主に周辺の山荘「夏沢鉱泉」「硫黄岳山荘」がボランティアで保護活動を行っています。そこで、長野県諏訪総支部（事務局：諏訪湖畔病院）では、両施設へ支援金を贈るなど、保護活動を支援。豊かな自然が次世代に受け継がれていくことを願い、10年以上にわたり支援活動を続けています。

観光客が美しい八ヶ岳を楽しめるのは、山を愛する地元の方々の地道な努力があってこそ。心から、感謝いたします。



ウルップソウ



井口光世支部代表（右）より支援金を贈呈